

# らkra

ラ・クラ

岩手・青森・秋田

隔月刊  
2018

# 9・10

vol.90

大人のための北東北エリアマガジン

2018年8月25日発行(隔月刊発行)

# 旅 ゆつこ

特集



おかげさまで90号  
増量読者プレゼント!





型上げ作業。平面状の巻き板を湯のみ茶碗で押し出して立体にし、製品ごとの型に当て、形を作る。手で感触を確かめながら、へらや棒でミリ単位まで微調整。繊細で美しい形状に仕上げる。これぞ、まさしく職人技だ。



厚さ1mm、長さ1800mmのテープ状のブナ材をボンドで継ぎ足しつつ、コイル状に巻き上げ、巻き板を作る。



図面データから、製品ごとの型を機械で作る。立体に型上げた巻き板に当てて形を作る。



ブナ材から漏れる透過光は、赤みを帯びる。見た目も温かい灯りは、ブナコランプ最大の魅力だ。



ブナコ西目屋工場  
青森県西目屋村大字田代字福元196  
TEL 0172-88-6730  
www.bunaco.co.jp



作り手の立場からブナコの魅力を語る。製作工程は、巻き上げ、型上げ、接着剤の塗布や乾燥、研磨、組み立て、塗装など。一連の作業を分担し、ひとつの製品に仕上げる。ほとんどが繊細な手作業だ。

最新のプロダクトは、世界的なデザイナーとして知られる、佐藤オオキ氏率いる「nendo」が手掛けたスピーカー。製造のプロセスをデザインの一部にした傑作だ。

ブナ材の可能性を広げ、優れたデザインの実現を可能にする、ブナコ。青森が誇る工芸品だ。

## file.37 ブナコ職人

ブナ材の蓄積量が日本一の青森県で考案された「ブナコ」。独自の製法を分業制で支えるのがブナコ職人だ。



### 湯のみ茶碗

型上げで使用。押し出す作業には、この湯のみの形状が最適。

### 棒・へら

型上げの作業時、ズレなどを微調整する道具。木や金属を削って手作りするため、形状は、さまざま。

### 作業着

西目屋工場では、見学者を受け入れているため、お客と職人の見分けが付きやすいよう、作業着が支給されている。

### ウエストポーチ

職人によっては、道具を収納するポーチを腰に付ける。

仕

しごと

事

にんずかん

凶

鑑

人

しま

ブナ材の有効利用を目指し、昭和31年（1956）、青森県工業試験場・場長の城倉可成氏と石郷岡啓之介氏の共同研究で考案された「ブナコ」。自由な造形が可能で、ブナ材の重なりが美しさを生んだ。試験場の望月好夫氏によるデザインも高く評価され、ブナコの名を冠して法人化されたのち、通産省選定のグッド・デザイン商品に何度となく選定されている。

現在、職人は29名。チーフの藤田直人さんは「ブナコ作りに憧れ、この道に。いくらでも時間をかけることができるので、どこで作業を止めるか、見極めが大切」と、